



DISTRICT 2500

OBIHIRO

ROTARY CLUB

No. 2796

第3114回例会

平成20年5月21日

2007-08年度国際ロータリーのテーマ／ROTARY SHARES(ロータリーは分かち合いの心)

方針 誠心誠意

会長 奥 周盛

■プログラム 地域発展委員会(野村 文吾 委員長) 交通ジャーナリスト 鈴木 文彦 氏 「街づくりにおける公共交通の考え方」



かつて、ほとんどの地域は公共交通をベースにつくられていました。街道の宿場町に町ができるといった具合に。それが近代交通の発達に従って、鉄道の駅を中心にした町ができ、公共交通としてのバスが集まり、拠点になりました。これが1970年代から変わってきます。交通の担い手がマイカーにシフトしていったのが一番の変化です。東京、大阪近辺の大都市圏を除けば、地域交通の9割のシェアをマイカーが占めています。まちそのものがマイカーに便利のように作り変えられています。かつての公共交通を中心にした街づくりとマイカーを中心にしたまちづくりが混在し、さまざまな問題を生んでいます。

公共交通とマイカーをどうバランスをつけていくのがこれからのポイント。少子高齢化社会になって高齢者の交通安全の問題もあれば、高齢者の送迎の負担もあって、マイカーすべてに依存はできません。環境問題もあります。公共交通がきちんと機能できるように維持し、育てていかなければならないでしょう。

公共交通は社会的インフラという考え方が重要です。ところが、現実の公共交通の経営は大変です。70年をピークに鉄道もバスもどんどん減ってきました。全国平均でみるとバスはピーク時の37、38%、地方では20%台で10%を切るところも。このギャップをどう埋めていくかがこれからの課題です。

これは誰がやるのか。人任せではだめです。鉄道会社やバス会社が勝手に走らせていた時代を経て、これからはその地域で生活する人、商売する人を含めてみんなが当事者になる必要があります。

ではどんな形で公共交通を育てていくのか、事例を紹介しましょう。これまではバスは都心部から末端まで同じように走らせていました。これからはメリハリをつけて考える必要があります。ほんとうにバスとし

ての機能が果たせるところは幹線と位置づけ、これに生活交通や地域内交通を組み合わせるという考え方。例えば、全長18メートルの超大型バスを幹線で走らせ、本数を増やし、サービスレベルを上げます。でも末端では無理なので、どこかに結節するターミナルを設けて地域を走るバスにつなげていく必要があります。実践している代表例は岩手県盛岡市。都心と郊外の乗り継ぎ用のバスターミナルまでは幹線バスがひんぱんに走り、地域を走る支線では小型バスに乗り換える仕組み。機能分担により、効率的にネットワークを作るわけです。松山市の場合は鉄道を幹線とし、駅で小型バスに乗り換えるスタイルです。

こうした支線バスは人々が利用しやすいようにもっと地域に密着したものにすべきで、三重県四日市市では住民がNPOを立ち上げ、スーパーから協賛金をいただいたりしながら資金を集めて、市の補助金も得てバスを走らせています。同じような考え方で、バスが入れないような地域でタクシー会社が乗り合いタクシーを走らせている例が広島市にあります。山口県山口市では市民が話し合い、乗り合いタクシーを運行させました。

地元で話し合って交通体系づくりにかかわっていくというのがこれからの流れになりそうです。実際、熱心に取り組む地域が増えています。マイカーを置いて公共交通を利用するパーク＆ライドや自転車と組み合わせたサイクル＆ライドの考え方も。宇都宮市や静岡市でかなり定着しています。

コミュニティバスについても行政主導ではなく、住民が本気でかかわる必要があります。予約して走らせるデマンド交通という考え方も必要です。

もうひとつは街の中心部を活性化させるためにバスを走らせる例。盛岡市内の循環バスは1日3000人もが利用していて、うまくいった例です。茨城県土浦市では商工会が中心になってバスを走らせ、地域通貨などからまかせています。函館市ではバス会社とスーパーが協力、スーパーが月に3日分のバスの収入に当たる分を広告料としてバス会社に支払い、客にはただで乗って

もらっています。福島県いわき市では深夜の帰宅バスを実験運行しています。夜間もこれからのポイントでしょうか。ヨーロッパにあるトランジットモールとして一定の場所を公共交通と歩行者だけにしてみちのにぎわいをとりもどしている沖縄県那覇市の例も。

一方、これまで公共交通は効率化、効率化できましたが、もっと人ができることを見直そうという動きもできました。盛岡市では高齢者の多い1路線で車掌を復活させました。駅には腕章をつけた案内人もいて何でも聞けます。人がかかわることも重要で、公共交通の安心につながります。

いずれにしても、今後どうしていくかをみんなで考え、相乗効果を上げていくことが大切です。帯広も街づくりと交通のあり方をぜひ見直してください。

■会長報告

奥 周盛 会長

5月14日、ロータリー寺子屋の最後の講義が行われ36名の出席をいただきました。講師のトリを務めた次年度幹事の松島会員は、勉強した成果を発揮して、大変内容のある講義でした。講義終了後の懇親会では、高橋標会員のお茶の話、大滝欽也会員の奥様、満子夫人のお点前、平原副会長の詩吟が披露され華やかな春の宴でありました。抽選会で盛り上げてくれた親睦委員会の新田委員長と倉野副委員長のご協力にも感謝申し上げます。

この寺子屋という言葉が、カラオケと同様に世界に通用する言葉であることをご存知でしょうか。今、ユネスコでは、世界識字教育運動のひとつとして「World TERAKOYA Movement（世界寺子屋運動）」を展開しています。まさしく、日本の寺子屋を世界中に普及させようとしているのです。ロータリー情報委員会をはじめとする、今回の寺子屋の運営関係者の先験的見識に敬意を表するとともに、そのご労苦に感謝申し上げます。

■会務報告

奥原 宏 幹事

帯広西RC 夜間例会

日時 5月29日(木)午後6時半 場所 北海道ホテル

■委員会報告

- ・出席報告 出席委員会・田端 祥信 委員長
5月21日例会会員総数101名(うち出席免除会員10名)出席者数59名
5月7日例会のメーキャップを含む出席者数及び出席率76名83.5%
- ・ニコニコ献金 親睦活動委員会・田巻 成男 委員
渡辺喜代美 会員

ロータリー情報委員会の「寺子屋」、無事終了させていただきました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

松島 隆 会員

5月14日、「寺子屋」、無事終了しました。

加藤 維利 会員

5月14日の寺子屋で、8回の事業を終了しました。多くの参加、ありがとうございました。

奥 周盛 会員

ロータリー寺子屋の最終会が楽しく華やかに開催されました。関係者のご労苦に感謝申し上げます。

高橋 標 会員

寺子屋の最終を飾る祝宴で、茶道表千家教授、大滝満子先生(大滝欽也会員の奥様)の薄茶のお点前を皆様に見て頂き、「和敬静寂」、茶の湯の精神の一端を味わって頂きました。「一期一会」の縁に恵まれ、新緑深まる春の宵を大変楽しく過ごしました。心より感謝申し上げます。

大滝 欽也 会員

寺子屋の勉強終了後、家内がお茶のお点前をさせていただきます。

後藤 健二 会員

寺子屋ファイナルにてディナー券が当たりました。第8回までご苦勞様でした。

讃岐 武史 会員

先日開催の寺子屋終業式で表彰を受け、記念品まで頂き、ありがとうございました。

金子 健太郎 会員

先週の寺子屋花見懇親会の抽選会にて、加藤薬局の高価栄養ドリンクが当たりました。今後もロータリー活動に精を出したいと思います。ありがとうございました。

合田 修 会員

寺子屋抽選会で、讃岐会員提供のたこ焼き器が当たりました。ありがとう。

曾我 彰夫 会員

先日の寺子屋の後の花見で「さぬきうどん」当たりました。高くついたかもしれません。

小白 智志 会員

最終の寺子屋にてさぬきうどんが当たりました。ありがとうございました。

土田 和夫 会員 さぬきうどんをいただきました。

島田 哲男 会員

2007年度、日産の全国アフターセールス部門で、ナンバー1を獲得することができました。これからもお客様のアフターフォローに全力を尽くして参ります。

野村 文吾 会員

今日の例会を担当させていただきます地域発展委員会の野村でございます。よろしくお願い致します。

■次週プログラム予定

「会員卓話」

プログラム委員会

木野村 英明 会員「裁判員制度について」



例会日/水曜日 12:30~13:30 例会会場/ホテル日航ノースランド帯広 TEL0155-24-1234

●創立/昭和10年3月15日●認証番号/3820●戦後再開/昭和25年12月19日

事務局/帯広市西3条南9丁目 経済センタービル4F TEL0155-25-7347 FAX0155-28-6033

●発行/クラブ会報●委員長/野村 一仁・佐藤 睦浩・宇佐美暢子・神谷 昭典・蔦井 秀則
増田 正二・櫻井頭一郎

●ホームページアドレス/http://www.tokachi.co.jp/obihiro-rc/